

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程）

事業者名：(有)ケアリゾート

※実施内容については、要綱別紙2「介護職員初任者研修における目標、評価の指針」を網羅すること。

| 研修カリキュラム（要綱別紙1） | | 実施計画 | | | | | | |
|-----------------|--------------------------|-------------|------------------|-----|------|------|---|---|
| 講義・演習（実習） | | カリキュラム名・時間数 | | | | 実施内容 | | |
| 1 | 職務の理解 6時間 | 1 | 職務の理解 | 時間数 | うち通学 | うち通信 | 1 | 職務の理解 |
| | (1)多様なサービスの理解 | | (1) 同左 | 2.5 | 2.5 | / | | (1) 介護保険のサービスの概要 |
| | (2)介護職の仕事内容や働く現場の理解 | | (2) 同左 | 3.5 | 3.5 | / | | (2) 介護の仕事内容、視聴覚教材を用いて具体的に学習 |
| 2 | 介護における尊厳の保持・自立支援 9時間 | 2 | 介護における尊厳の保持・自立支援 | 時間数 | うち通学 | うち通信 | 2 | 介護における尊厳の保持・自立支援 |
| | (1)人権と尊厳を支える介護 | | (1) 同左 | 4.5 | 2 | 2.5 | | (1) 個人としての尊重、利用者のプライバシー保護、個人情報保護法、人権擁護などを踏まえて学習 |
| | (2)自立に向けた介護 | | (2) 同左 | 4.5 | 2 | 2.5 | | (2) 自立支援、介護予防について学び、本当の自立支援とは、どういう事か理解する。 |
| 3 | 介護の基本 6時間 | 3 | 介護の基本 | 時間数 | うち通学 | うち通信 | 3 | 介護の基本 |
| | (1)介護職の役割、専門性と多職種との連携 | | (1) 同左 | 2 | 1 | 1 | | (1) 訪問介護と施設介護サービスの違い、チームケアにおける役割分担、重要性について |
| | (2)介護職の職業倫理 | | (2) 同左 | 2 | 1 | 1 | | (2) 介護職として社会的責任、プライバシーの保護・尊重 |
| | (3)介護における安全の確保とリスクマネジメント | | (3) 同左 | 1 | 0.5 | 0.5 | | (3) リスクマネジメント、感染の原因と経路、感染についての正しい認識 |
| | (4)介護職の安全 | | (4) 同左 | 1 | 0.5 | 0.5 | | (4) ストレスマネジメント、腰痛予防、手洗い・うがいの励行 |

| 4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間 | | 時間数 | うち通学 | うち通信 | 4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 | |
|---------------------------|--|-----|------|------|---|--|
| (1) 介護保険制度 | | 4.5 | 0.5 | 4 | (1) 保険制度としての基本的仕組み、介護給付と種類 | |
| (2) 障害者総合支援制度及びその他の制度 | | 3 | 0.5 | 2.5 | (2) 障害の概念、ICF、成年後見制度などについて | |
| (3) 医療との連携とリハビリテーション | | 1.5 | 0.5 | 1 | (3) 施設における看護と介護の役割・連携 | |
| 5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間 | | 時間数 | うち通学 | うち通信 | 5 介護におけるコミュニケーション技術 | |
| (1) 介護におけるコミュニケーション | | 3.5 | 1.5 | 2 | (1) 利用者の状況に応じたコミュニケーション、アセスメントの手法、ニーズとデマンドの違い | |
| (2) 介護におけるチームのコミュニケーション | | 2.5 | 1.5 | 1 | (2) 介護における記録の意義・目的・情報共有の大切さ | |
| 6 老化の理解 6時間 | | 時間数 | うち通学 | うち通信 | 6 老化の理解 | |
| (1) 老化に伴うところとからだの変化と日常 | | 3 | 1.5 | 1.5 | (1) 身体的機能の変化と日常生活への影響について | |
| (2) 高齢者と健康 | | 3 | 1.5 | 1.5 | (2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 | |
| 7 認知症の理解 6時間 | | 時間数 | うち通学 | うち通信 | 7 認知症の理解 | |
| (1) 認知症を取り巻く状況 | | 2 | 1 | 1 | (1) 認知症ケアについてできる事を学ぶ | |
| (2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 | | 2 | 1 | 1 | (2) 認知症の定義・物忘れとの違い、心理・行動の特徴 | |
| (3) 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活 | | 1.5 | 0.5 | 1 | (3) 認知症の中核症状・行動・心理症状、不適切なケア、生活環境による改善 | |
| (4) 家族への支援 | | 0.5 | 0.5 | 0 | (4) 家族の介護負担の軽減 | |

| 8 障がいの理解 | | 3時間 |
|---|--|---------|
| (1) 障害の基礎的理解 | | |
| (2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎的知識 | | |
| (3) 家族の心理、かかり支援の理解 | | |
| 9 ころとからだのしくみと生活支援技術 | | 7.5時間 |
| ア 基本知識の学習 | | 10~13時間 |
| (1) 介護の基本的な考え方 | | |
| (2) 介護に関するころのしくみの基礎的理解 | | |
| (3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解 | | |
| イ 生活支援技術の講義・演習 | | 50~55時間 |
| (4) 生活と家事 | | |
| (5) 快適な居住環境整備と介護 | | |
| (6) 整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 | | |
| (7) 移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 | | |
| (8) 食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 | | |

| 8 障がいの理解 | 時間数 | うち通学 | うち通信 | 8 障害の理解 |
|---------------------|-----|------|------|--|
| (1) 同左 | 1.5 | 0.5 | 1 | (1) ICFの分類と医学的分類、ICFの考え方、ノーマライゼーションの概念 |
| (2) 同左 | 1 | 0.5 | 0.5 | (2) 身体・知的・精神障害の分類について |
| (3) 同左 | 0.5 | 0.5 | 0 | (3) 障害の理解、受容支援、介護負担の軽減 |
| 9 ころとからだのしくみと生活支援技術 | | | | 9 ころとからだのしくみと生活支援技術 |
| ア 基本知識の学習 | 時間数 | うち通学 | うち通信 | ア 基本知識の学習 |
| (1) 同左 | 2 | 1 | 1 | (1) ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除 |
| (2) 同左 | 2 | 1 | 1 | (2) 自己概念と生きがい、心の持ち方が行動に与える影響 |
| (3) 同左 | 6 | 2 | 4 | (3) ボディメカニクスの活用、心と体を一体的に捉える |
| イ 生活支援技術の講義・演習 | 時間数 | うち通学 | うち通信 | イ 生活支援技術の講義・演習 |
| (4) 同左 | 5 | 5 | 0 | (4) 家事援助に関する基礎的知識と生活支援生活歴、自立支援、予防的な対応などについて |
| (5) 同左 | 4 | 4 | 0 | (5) 家庭内に多い事故、バリアフリー、住宅改修、福祉用具貸与 |
| (6) 同左 | 6 | 6 | 0 | (6) 身体状況に合わせた衣類の選択、着脱、身支度、整容行動、洗面の意義・効果 |
| (7) 同左 | 8 | 8 | 0 | (7) 移動・移乗に関する用具と活用方法、ベッド・車いす等を使っての演習 |
| (8) 同左 | 6 | 6 | 0 | (8) 食事環境の整備・用具・食器の活用方法と食事形態と体の仕組み、食事の意味・ケアに対する介護者の意識 |

第1-2号様式

| | | | | | |
|-------------------------------------|------------|-----|------|------|---|
| (9)入浴、生活保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | (9) 同左 | 9 | 7 | 2 | (9) 入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴のあり方、全身清拭など |
| (10)排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | (10) 同左 | 9 | 7 | 2 | (10) 排泄用具の活用方法、環境整備、排泄を阻害する心と体の要因の理解と支援方法 |
| (11)睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 | (11) 同左 | 2 | 2 | 0 | (11) 睡眠環境と用具の活用方法、睡眠を阻害する心と体の要因の理解と支援方法 |
| (12)死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護 | (12) 同左 | 4 | 2 | 2 | (12) 生から死への過程、死に向き合う心の理解、終末ケアに関する事 |
| ウ 生活支援技術演習 10~12時間 | ウ 生活支援技術演習 | 時間数 | うち通学 | うち通信 | ウ 生活支援技術演習 |
| (13)介護過程の基礎的理解 | (13) 同左 | 4 | 4 | 0 | (13) 介護過程の意義・展開、グループディスカッション |
| (14)総合生活支援技術演習 | (14) 同左 | 8 | 8 | 0 | (14) 事例の提示→心と体の要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習・課題 |
| 10 振り返り 4時間 | 10 振り返り | 時間数 | うち通学 | うち通信 | 10 振り返り |
| (1)振り返り | (1) 同左 | 2 | 2 | / | (1) 研修を通して学んだ事、今後継続して学ぶべき事、根拠に基づく介護についての要点 |
| (2)就業への備えと研修終了後における継続的な研修 | (2) 同左 | 2 | 2 | / | (2) 継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所における事例等(Off-jt、Ojt) |
| 追加カリキュラム | | | | | |
| 計 (130時間) | 計 (130時間) | | | | |

※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。

※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。

※ 時間配分の下限は、30分単位とする。

※ 項目ごとに時間数を設定すること。

※ 実施内容には、講義内容、演習の実施方法、通信学習課題の概要等を記載すること。(別紙でも可)

※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。